

2017年

5月10日

第302号

ゆうあい通信

発行所 石井記念友愛園

宮崎県児湯郡木城町椎木 644 番地

〒884-0102 Tel 0983-32-2025

石井十次の会さつき様

園長 児嶋草次郎

5月に入り、この茶臼原は緑一色。すがすがしい空気とこの新緑のにおい、そして元気に泳ぐコイノボリの向こうのすんだ空に囲まれながら、元気に暮らしています。園の子供たちも一人ひとり元気です。今年の友愛園の田植えは、4月29日、30日の2日間で終わりました。いや、正確には、29日の午後から始めて30日の4時すぎまでです。御存知のように、友愛園の田植えは、昔ながらのやり方で、3月に苗代に種を播き、1か月ちょっとで成長した苗をみんなで取って束に結んで、代かきした水田に投げ込み、手植えしていきます。約3反ほどを1日半でやり終えたのは初めてです。それだけ一人ひとりの子ども達、職員達が集中して取り組み、チームワークも最上の出来だったということになります。30日にはNHKテレビも取材に訪れ、この田植えを、子供たちがプライドと誇りを獲得するための体験（修行）ですと説明しました。

お手紙、ありがとうございました。拝読し、励まされましたし、また反省させられ、これからの石井記念友愛社後援会「石井十次の会」の役割について考えさせられました。この後援会の設立以来、ずっと20年間支え続けてくださっていることに感謝申し上げます。

「友愛通信」も、おかげ様で300号を越えることが出来ました。毎月一回の発行で25年欠かすことなく続いたわけですら、我ながら褒めてあげたいと思います。「気負いがなく謙虚」というお誉めの言葉ありがとうございます。私が常に心がけていることは、園の子供たちが読める文章であること、そして後援してくださる皆様への実践報告であることの二つです。最近はこの石井十次文化と茶臼原の自然の伝承者としての役目であることを意識することにしています。自己アピールは二の次です。私がこの世にいなくなって、この文章（言い伝え）の価値は出てくるのではないかと密かに思っているのです。

さて、「石井十次の会」の今後の役割についてです。「友愛通信」の先月号（301号）に、「様々な御縁が、子供たちを成長させるための大きな力となって来た」

と書かせていただきましたが、御指摘のように、大学進学だけではなく、お一人おひとりの会員の皆様の支えが、職員・子ども達にとってどんな力となっているのか、一端をお答えさせていただきます。

まず子供たちにとって「石井十次の会」の人々は、“顔の見える国民”ということになると思います。色んな行事に参加・協力くださっていますし、子ども達は施設職員以外の大人とけっこう多く接する機会があるわけです。毎月の「友愛通信」の発送作業、収穫感謝祭やクリスマス会など、多くの「石井十次の会」の皆様が訪れてくださいます。「国民の多くの皆様から、みんなは支えてもらっている、感謝の気持ちを持って」と言っても、子ども達の頭の中には一人の人間としてイメージできません。しかし、日頃から出入りしている「石井十次の会」の方々から話しかけられたり励まされたりしていると、自分達が支えられているということを実感できるようになるのです。実感できて初めて感謝の気持ちは湧いてくるのです。さつき様は県外にお住まいですので、めったに子ども達と交流する機会はありませんが、この近隣の会員の方々はその役目を果たして下さっていますので、ご安心ください。

職員にとっても同じようなことは言えるのですが、チェック機能としての働き方が大きいかもかもしれません。この石井記念友愛園に限らず、友愛社の各施設は20年前に比べると、随分風通しが良くなって来ています。特に児童養護施設は、閉鎖的で地域性に乏しく、職員は社会性が未熟でした（もちろん私を含めてです）。しかし、常にお客様がこられるようになると、職員達の意識も変わって来ます。いわゆる税金で成り立っている施設であり、国民の信頼を裏切らないようにしなければならないわけですが、より身近な後援会の方々の期待・信頼を裏切らないように仕事をしなければならないと考えた方が、より緊張感は湧いて来ます。そういう意味では、やはり“顔の見える国民”なのです。

今、社会福祉法人改革で、コンプライアンス（法令順守）が厳しく求められるようになって来ています。当然のことではありますが、私は、すべての社会福祉法人が後援会を設置すべきとも考えています。後援会の人々の視線を常に感じていれば、いい加減なことはできないでしょう。

石井十次の会の会則には、その目的として、①石井記念友愛社の諸活動への財政的支援。②石井記念友愛社所有の福祉文化財の保存と管理に関する支援。③その他、会員相互の親睦と目的達成のために必要と認められる事業、と三つが掲げられてありますが、今書かせていただいたことは、おそらく会員の方々あまり見えてない部分です。あえて書かせていただきました。

後援会の設立以来20年が経過。途中で、「友愛社を支える会」から「石井十次

の会」へと名前も変って来ています。時代もこの 20 年で随分変わって来ました。さつき様を書いてくださっているように、この節目にその存在意義について立ち止まって考えてみるべき時なのかもしれません。最初の頃の会員の方々は今もう亡くなったり、高齢化されたり、世代交代の時期も迎えております。1000 人以上いた会員も 900 人台に減少して来ています。さつき様が御指摘のように、新たな活性化を考えねばならない時でしょう。

おっしゃるように「この『石井十次の会』に所属していることで、自分が社会貢献しているという実感がほしい」という若い方々にキチンと向き合い答えたいかねばならないのでしょうか。私としては、さつきの精神的な支援も含めて、十分に石井記念友愛社への支援を通して社会貢献されていると思うのですが、私達のアピールが足りないのかもしれませんがね。今まで 20 年間、1000 人以上の後援会の皆様のバックアップがあってこそ、私は、果敢に福祉ニーズに対して攻め続けることができたのです。3000 円の会費は申し訳ありませんが、さつき様も今後も躊躇されることなく、退会されることなく御支援続けて下さいますようお願い致します。

実は、5 月 14 日の「石井十次の会」の総会において、会長が清郁雄様から前西都市長の橋田和実様に交代する予定です。清様が前会長内田聡様亡き後しっかり守って下さったことには感謝ですが、お体の調子が充分ではなく今回引かれることになりました。「石井十次の会」は全くのボランティアの集まりであり、会員の方々のお考え・価値観もそれぞれで、まとめていくのは大変。清様の御仁徳でここまで導いてくださいました。

橋田様とは今後の「石井十次の会」の役割について、十分に協議をさせていただきたいと思います。私がこれから一番課題としていることが、石井十次資料館・研修館を小学生や中学生達の道徳教育の拠点とするということ。まず近隣の小・中学校へ働きかけ、年に 1 度はここを訪れて学んでもらえるような流れを作っていかなばなりません。子供の貧困、貧困の連鎖が大きな社会問題となりつつあり、今や、施設にいる子ども達だけに支援の対象をしぼる時代ではないでしょう。文化的貧困の中に置かれている子ども達をいかに救い出すのか、また一般家庭の子ども達の中にも、心の貧困を抱えているケースも多く見られ、この石井十次資料館が彼らに勇気と希望を与えることができると私は確信しているのです。チャンスを与えてあげたいのです。

総理大臣が昨年国会の施政方針演説で石井十次を引用したり、文藝春秋 4 月号で石井十次を取りあげたり、機は熟しつつあると思います。私達に与えられた一つのチャンスです。

田植えの時に NHK テレビが来たとき先ほど書きましたが、これは実は石井記念友愛園の卒園生で、現在九州保健福祉大学3年のニシヤマアキヒコ君への取材の一卷なのです。彼は、自分がテレビに出て語ることで、友愛園だけではなく多くの施設の子供たちが大学進学への夢・希望を持つようになってくれればという思いで、テレビカメラの前に立つことを決断したのです。素晴らしい決断であり、私自身、何だか吉田松陰にでもなった気分です。彼に負けてはおれません。

彼も友愛園生活を通してある程度自覚はしていると思うのですが、今回のテレビ取材の中で、次のような話をカメラの前で彼にしました。

石井十次の青春時代は、挫折の連続だった。しかし、十次少年はその度に立ち上がって前進した。その成長の過程から学ぶことが3つある。自立のための3つの条件、あるいは自立の法則3か条と言ってよい。

①親の愛情。これについては、児童養護施設で育つ子はハンディを背負わされている。しかし、友愛園では、職員が親の代りとして住み込んで子供たちと寝食を共にしており、決して見劣りするものではない。アキヒコ君も感謝しているようだけど世間に対して気後れすることはない。

②志を育てるしつけ・教育。世のため人のために自分は生きるんだという思いが十次少年に常にあったが故に、彼は失敗してもすぐに立ち上がることができた。そういうしつけをした十次少年の父親が偉い。友愛園では、天心館での生活が親に代る愛情を注ぐ場。そして、中・高生寮の三友館は、志（夢）を育てる場。生活手帳で毎年「自己実現プログラム」を作るのもそのための作業。志（夢）を実現していくためには、強い自律心と忍耐力も必要。その力を身につけるために労作教育はある。一泊旅行で広瀬淡窓の咸宜園や横井小楠の四時軒を訪ねたり、高校生自覚旅行で吉田松陰の松下村塾を訪ねたりするのも、志を育てるための教育。

③出会い。石井十次の父親は、十次少年に出会いを準備していった。また十次少年も出会いを、人生を変える本物の出会いだと感じ取れる感性を身につけていた。

アキヒコ君も、大学に入学して、出会いに恵まれている。感謝しなければならない。友愛園にいる時に、元高萩市長草間吉夫氏の話聞いたことがあるけど、大学在学中に訪ねていってみるとよい。これからは草間吉夫氏を目標に生きていくとよい。この3つの自立の法則は頭の隅に常に置いてこれからは生きてほしい。

話が脱線してしまってすみません。ついでに最後に突拍子もない話を一つ。4月27日の「石井十次の会」幹事会で提案させていただきました。11月頃に東京で「石井十次の会」の集会を開き、その勢いで、去年1月に国会の施政方針演説で石井十次の言葉を引用してくださった総理大臣を表敬訪問しませんかと話してみ

たのです。反応はパッとしませんでしたが、何事も言い出しっぺが必要。もし具体化したら、さつき様も同行されませんか。

長々と書いてしまいました。お体を大切にされ、これからも御指導・御支援、よろしく願いいたします。ありがとうございました。